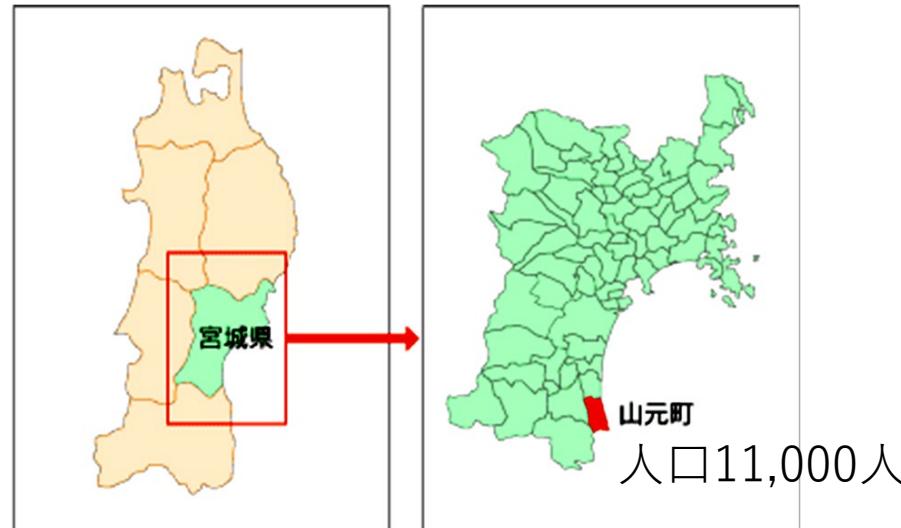


障害のある人もない人も 共に学び、生きる

宮城県山元町 NPO法人ポラリスの活動



NPO法人ポラリス 田口ひろみ

(自己紹介)

田口 ひろみ

1991年 (H3) 仙台市から山元町へ移住

1998年 (H10) 町設立の精神障害者授産施設に勤務

2000年 (H12) 山元町社会福祉協議会職員 (障害者支援を継続)

2011年 (H23) 東日本大震災 (避難時巡回～施設再開～活動の立て直し)

2015年 (H27) NPO法人ポラリス設立 代表理事 (～現在)

精神保健福祉士・社会教育士

震災で気づかされた、 日常の中の「つながり」の大切さ。



震災直後の被災状況



仮設住宅



災害公営住宅

障害者権利条約の批准（2014年）



障害のある人が
自己決定・自己選択をする権利が
保障される時代になりました。

批准から10年あまり・・・
地域での理解と実現は、まだ途上。

震災からの復興と、これからの中核づくり

立場をこえて、

理解し合い、つながり、支え合える地域へ。

NPO法人ポラリス設立（2015年）

地域全体をフィールドに、
「はたらく」「たのしむ」「まなぶ」



はたらく



たのしむ



まなぶ

20代から70代までの知的障害、発達障害、精神障害のある方々。

障害者就労継続支援B型事業

(定員20名)

目指しているのは

「働くこと」や「自立すること」



特産品いちごの箱組み立て



スーパー店頭での資源物集め



葬祭会館への花の搬入作業

アトリエ開設（2016年）



近所の民家を借りてアトリエを開設。
「アート＆ケア」の活動からスタート。創作活動と心のケアの場に。

壁画「Happyやまのもと」（2016年）



アートワークショップ



壁画「Happyやまのもと」（高さ2m×長さ33m）

障害者が地域文化に参加（山元が元気になるアート）
アートを通じて地域とつながる機会づくり

ポラリスカフェ（2018年）



町の施設が再建され、
さらに、
山元町防災・交流センターが
新たにできた！

障害のある人も気軽に使える場所へ

公共施設：「町にあるもの」を活用した学びの場づくり

文科省実践研究

「山元こぐまサロン」（2021年～2023年）



障害者を中心に置くことで、地域の優しさが広がる

「山元こぐまサロン」実施体制

企画・運営

山元町

- ・生涯学習課
- ・保健福祉課

NPO法人ポラリス
(コーディネーター)

東北福祉大学
森明人准教授
(アドバイザー)

基幹相談支援
センターやすらぎ
(地域協議会)

ポラリス
「こう・ふく」アトリエの会
(当事者会)

地域の中で 学ぶ



宮城県立山元支援学校



ひだまりホール/おもだか館
(社会教育施設)



ひろばポラリス
(地域のフリースペース)



蔵王自然の家
(県立社会教育施設)

地域の ひとと 学ぶ

アート

今野裕結
(画家)

山元支援学校
(特別支援教育)

たいそう

ホップステップ
(体育団体)

ユニバーサル学習

- 山元町保健師
- 山元語りべの会
(防災学習)

うた

どらごえサークル
(文化団体)

自然体験

宮城県
生涯学習課

行政×NPO×地域 : 共創プロジェクトのはじまり

楽しく学べるプログラムの開発



「インドのお兄さんと話そう」など、楽しく学べる企画を実施。

特別支援学校とのアート交流



支援学校の生徒とアートで交流。
卒業後も学びが続くよう保護者と対話。

町の生涯学習プログラムへの参加（2023年～）



地域の人と楽しくリフレッシュ。

主催：山元町 (2025年～)



山元町ユニバーサルな学びの場づくり事業

「うたで学ぼう平和のこと」

利用者の声

①40代女性

ひろいさんは“あい (42)

はじめは
おうち はじめは、わざい、さとうをならしていました。

10年昔から 電車で通勤、ながままであってうれしい。

やすます おそいとが園芸とかは、ありますか？ 自信をつける

アートを楽しむ
糸会を描くしゅう、売れる!! みんなにみしもらてみんな、
よろこんでもううれし

山元バウスマサロー
くまなび わからないこともしょもんできた

むずかしかったけど、いろんな入とい、しょいあべもんじて、
先制

地域のしらなかた、入とながましいなってホーリス以外でも

地域の中ではなしてきるようにな、た

今は
Hip Hopに週1回自分でいくのかたのい
これからもみんなでいろいろなことをやりたい



(ペンスーム)ダイナマイトさん 47歳
20代の時に交通事故で「頭部外傷
後遺症」になって、今は車椅子で
はもうくことをめざしている。



② 記憶障害のある40代男性

〈どうして「樂む事」が大事か?〉

人にいいきみが大事だと思うから
人間には恩みき(リフレッシュ)大事
リフレッシュするとやる気がでてくる

〈どうして「まなびたい」こと大事?〉

自分がやったことのないからなうこと
が多かったとれもしろ事がでました
今もまだまだまなびたい
わからないことが少しずつわかるようにな
ると自分で役立つ少し人生が
楽しくなるとうするとはたらくことを
やってみようと思う

◎他の参加者の声もまとめると、

- ・今まで知らなかつたことを新たに知る・出来るようになることのうれしさ。
- ・地域の中で声をかけてくれたり、一緒に楽しいことをしてみたりするのが楽しい、うれしい。
- ・自宅以外にも居場所がほしい。そういうところが増えたらいいな。

◎保護者の感想の一部

- ・娘は、笑顔だけが挨拶だったが、言葉でいさつ、ちょっと会話ができるようになって少し前進かな？
- ・皆の前で自分の名前や思っている事を発表できたことは、親としてはびっくりした。
- ・サロンに参加した人が、名前まではわからなくとも顔を覚えていてくださって、地域の中で挨拶できるようになった。

障害福祉×社会教育がつなぐ「共に生きる社会」

障害者
家族



- ・孤立
- ・自己否定的
- ・情報弱者
- ・生活困窮
- ・親亡き後の不安



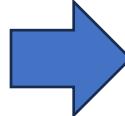
- ・つながる
- ・自己肯定・自己有用感
- ・楽しく学ぶ
- ・働く意欲・社会参加
- ・自立



- ・支え合う
- ・相談し合う
- ・担い手育成
- ・安心安全
- ・心豊か

地域

- ・無関心
- ・偏見
- ・不安



- ・互いに理解する
- ・価値の変容
- ・共に学び合う



「学び」が、人と地域をやさしくつなっていく。

障害のある人もない人も
共に学び、生きる

宮城県山元町 NPO法人ポラリスの活動

